



くさしぎ便り No. 7

くさしぎ・草の根市議と市政を考える会 2014年1月発行 e-mail kusasigi@nifty.com

「くさしぎ」第7号をお届けします。

2013年の東京都防災訓練は11月23日にあきる野で行われました。それに先立つ10月14日、立川自衛隊監視テント村の大西章寛さんに、自衛隊・米軍が参加する東京都防災訓練の実態と問題点についてお話を伺いました。「東日本大震災に活躍した自衛隊が防災訓練に参加することは当然」と思う人は多いかもしれませんが、ぜひ、以下の報告を読んで考えてみて下さい。

「あきる野っぱら 学びの場 その7」ご報告

2013年10月14日あきる野ルピアにて開催

あきる野に米軍と自衛隊がやってくる!?

——東京都総合防災訓練(11.23)について考える——



防災訓練にオスプレイ!? 日本政府は中期防衛力整備計画で17機の新規導入を決定。今後、防災訓練に使用される可能性もある。

話題提供者 大西章寛さん

●おおにし のぶひろさんプロフィール●
1973年生まれ。米軍・自衛隊参加の防災訓練に反対する実行委員会2013、立川自衛隊監視テント村・メンバー。2004年に、「イラク反戦」のビラを自衛隊官舎のドアポストに入れたことで逮捕・起訴される。一審の地裁で無罪を勝ち取ったが、高裁、最高裁で罰金刑による不当判決となった。普段は重度障害者の介助の仕事をしている。

●東京都総合防災訓練とは

東京都の防災訓練は毎年、区部と多摩地域とで交互に行われています。毎年9月に行われますが、今年(2013年)のあきる野の訓練は東京国体があった関係で11月になりました。

主にどのような訓練が行われるのか、四つの例を挙げて説明します。

一つ目は「大規模な救出救助訓練」。主に消防庁が、例えば、訓練用の仮設の建物からヘリコ

プターで人が運んだりする、いわゆる「見せる訓練」です。

二つ目の「住民による救出救助訓練」では、例えば、町内会(ふだんから自主防災組織という看板も持っている)が、「救助役」と「負傷者役」に役割を決めて負傷者救護の訓練をします。ときには、住民のみで救助するという設定の場合もありますが、実際は消防のレスキュー隊が手助けをします。このように「見せる訓練」から「実

践する訓練」に流れは変わってきています。

三つ目の「緊急支援物資搬送訓練」とは、主に自衛隊・米軍のヘリコプターが物資を物資集積所へ運び、そこからトラックで避難所へ運ぶという訓練です。

四つ目の「医療救護班活動訓練」で特に注目したいのは「トリアージ」です。ケガの度合いによって医療の内容を変えするというもので、違う色のカードを負傷者に付けていきます。そもそもこれは戦時選別医療が原型で、治療すれば戦線に復帰できるかどうか、できなければ切り捨てる、ということ判断するためのものです。

●石原都知事が始めた

自衛隊・米軍の参加

2000年、石原都知事は陸上自衛隊の式典で「今日の東京を見ますと、不法入国した多くの邦人、外国人が非常に凶悪な犯罪を繰り返している」、「もし大きな災害が起こった時には大きな騒擾（そうじょう）事件すら想定される」、「そういうときに皆さんに出動願って（中略）やはり治安の維持も、ひとつの大きな目的として遂行していただきたい」と発言をしました。この年以降、東京都の防災訓練に自衛隊が大々的に参加することになり、「治安訓練」としての色彩が強くなっていきました。



「アウンサンスーチーと同じ『良心の囚人』だったんです」とユーモアを交えながら語る大西さん。大西さんたち3名は「反戦ビラ弾圧事件」で獄中にあるとき、アムネスティ・インターナショナルから『良心の囚人』に認定された。

実は、ビッグレスキューの際にも、自衛隊は都の訓練に参加しているというよりは、自衛隊独自の訓練として位置づけていました。昨年は、「首都直下地震統合防災訓練」という、練馬の駐屯地から夜中に迷彩服を着たまま、23区や立川市の役所に移動するという訓練を行いました。かつては都の防災訓練の中に独自の訓練を組み込んでいたのが、昨今は単独で実施し、それに自治体を協力させる形に変化してきています。

2001年に自衛隊が防災訓練で米軍横田基地を使用することになり、2006年には米軍も参加することになりました。

2000年は自衛隊員の参加は7000人でしたが、ここ数年、170人、150人と減ってきています。しかし、そこに騙されてはいけません。当初は自衛隊と自治体の連携がなかったのが、もはや浸透し、確立したと言えます。2006年に国民保護法が出来て、戦争時に自衛隊と自治体がどのように連携するか、ということが決められたのです。あきる野でも決められているはずです。

●自衛隊への人々の印象

自衛隊への人々のイメージは東日本大震災以降よくなっています。2012年3月の内閣府の調査では「良い印象」が91.7%と過去最高だったそうです。

非正規雇用の増大、経済格差の拡大、弱肉強食社会という現実の中で不安が煽られ、人々の間で「最後に頼れるのは自衛隊」という深層心理になっているのでしょうか。人々の危機感、不安感を利用して、管理社会、監視社会をつくらうとしており、逆に権力を監視する人々の力は脆弱になっているように思います。

●防災を口実に強まる社会統制

2005年に中央防災会議が決定した「首都直下地震対策大綱」は、地震が起きたときに自衛隊がいかにすばやく都心へ向かうことができるのか、その目的のためにつくられたものと言えます。

彼らの考える防災とは、首都中枢機能、すな

わち、国会や日銀や金融機関を守るということです。そして、住民に対しては、「自助努力」、「自己責任」という基本的な方針の下に、管理できる住民と管理できない住民を分けて、避難者を収容する一方で、避難者が過剰に増えないように自宅への復帰、「疎開」の斡旋をする。また、不安に陥りやすい被災者の心理をコントロールする。まさに、治安対策です。

つまり、「有事」の際には自衛隊、警察がいち早く都心に入る。その際、民間人は邪魔なので多摩地域に排除する、それが防災訓練の最終的な目的だと思います。

●東日本大震災で自衛隊は どう活躍したのか

東日本大震災で警察が救助した人は3750人、消防は4614人、自衛隊は1万9247人となっています。自衛隊によって救助された人数が目立ちますが、その実態は「誘導」、「移送」です。例えば、ビルの屋上などに避難していた人たちをまとめて誘導した場合などがあります。

私も東日本大震災で自衛隊が活躍したことは認めます。ただ、活躍できたのは、自衛隊がヘリコプターなどの輸送手段をもっていたからです。消防庁のヘリコプターは全国で32機しかありませんが、自衛隊は陸上自衛隊の一部のものだけで300機以上もあります。

組織人員は消防隊員が15万人なのに対して、自衛隊が24万人。予算も1兆9千億に対して、防衛予算は4兆7千億もあります。

●防災対策は戦争にも応用できる

防災対策は戦争にも応用できることを防衛省自身が認めています。例えば、防衛省は東日本大震災の「教訓事項」をまとめるにあたり、「今後の震災等の災害への対応を主としつつも、我が国有事を含む各種事態に対する防衛能力の強化に資することを目的として作成したものである」（「平成23年8月防衛省東日本大震災への対応に関する教訓事項」）と記しています。

●本当に必要な防災対策とは何か

防災対策を時系列で言えば①予防。そして、災害発生後、②避難。③救出・救助。④避難生活・援助。⑤復旧・復興となりますが、最も効果的なのは、地震では建物の耐震化、津波では一刻も早い避難と避難情報の正確で早い伝達です。

東日本大震災後の調査では、死亡した人の内、津波で溺れて死亡した人が92%に達しています。そして、津波に遭った人の内、49%の人が避難指示の情報をまったく聞いていませんでした。「いつ逃げたか」という質問に対しては、何も知らないで、津波が迫ってきて初めて逃げた人が11%もいました。

自衛隊ができることは前述した時系列の項目で言えば、③救出・救助、④避難生活・援助の部分となります。

阪神大震災の場合、死者の83.3%が建物の倒壊によるものでした。地震の場合は自分がどんな建物にいるかで生死の分かれ目となっています。地震の場合は建物の耐震化対策が一番効果的です。しかし、防衛費が4兆7千億円ある一方で、耐震化の予算は200億円程度しかありません。

防災の目的が命を救うことにあると考えるなら、地震の場合は耐震化、津波の場合は一刻も早い避難ということになります。

例えば、阪神大震災時に、生き埋めや閉じ込められて助かった人の内、「自力で」が34.9%、「家族に」が31.9%、「友人・隣人に」が28.1%、「通行人に」が2.6%、そして、「救助隊に」助けられたのは全体の1.7%しかありませんでした。その中でも自衛隊に助けられる人は本当に僅かでしょう。それにもかかわらず、「地震のときは自衛隊が助けてくれる」と思うのは幻想でしかありません。

あえて、防災訓練のメリットを言えば、「地震について考えるきっかけになる」、「消化器などの使い方を覚える」、「近所の人たちと知り合いになり、『共助』にも繋がる」ということが挙げられますが、しかし、それは防災訓練でなけれ

ばできないことでしょうか。まして、米軍や自衛隊の参加が必要とは思えません。

●軍隊の本質とは？

——軍隊は住民を守らない

軍隊というのは上からの命令を守るもので、住民一人一人の命を守るものではありません。

その最たる例として、2011年3月14日、南相馬市の避難所に深夜、突然、自衛隊がやって来たときのことが挙げられます。自衛隊員は避難している人たちに次のように叫んだそうです。「私たちは上（北沢防衛相）の命令で退避するように命じられたので南相馬市から引き揚げます。

これは私見ですが、福島原発は非常に危険な状況にきていると思います」。そう言って自衛隊はジープに乗って去ってしまいました。おかげで逃げ出す人の車で県道12号は大渋滞。一人一人の命を助けるよりも命令の方を重視するというのが自衛隊です。

戦争する軍隊も災害派遣される軍隊も、同じ軍隊です。防災が国家機能を守るものである以上、戦争も防災も軍の活動目的は同じであるはずで、軍隊があるから戦争がある。その当たり前のことをもう一度考えてみてはどうでしょう。（了）

「くさしぎ・草の根市議と市政を考える会」の紹介

「くさしぎ」は鳥の名前ですが、「草の根市議」という意味も込め、会の名前としました。2011年の福島原発事故以後、多くの気づきがありました。その中で「今まで私たち市民は、あまりにも政治家に政治をお任せにしてきたのではないか」という苦い反省もその一つです。「くさしぎ」はこの反省に立ち、もっとも身近な市政に、私たちの代表の「草の根市議」を誕生させ、その市議とともに市政に主体的に関わろうと呼びかける、あきる野市民の会です。

2011年11月からこうした趣旨に基づき、西多摩地区の草の根市議に話を聞いたり、どういう市議が望ましいか等話し合いを重ねてきました。その結果、市民代表としての「草の根市議」は次のような要件を持つのではないかとイメージがまとまりました。

- ①市民といっしょに市政を考える。
- ②市の現状と問題点を市民に情報発信する。
- ③開発優先ではなく、環境優先(放射能への危機感を持つ)。
- ④マイノリティの視点をすくいあげる。

以上のような要件を満たす市議を市議会に送り、ともに市の課題を考え、ともに解決していく良き伴走者になりたいと考えています。あきる野市を今以上に暮らしやすい「マイタウン」にできるよう、多くの市民が「くさしぎ」の活動に参加して下さる事を期待しています。

～つながりましょう～

(^_^) / 「くさしぎ」メンバー募集中 (*^_^*)

「あきる野のごみが気になる」「放射能は大丈夫?」「市の財政はどうなってるの」なんて市政に少しでも興味がわいた方、「くさしぎ便り」を今後も読みたい方、「くさしぎ」のメンバーになりませんか? ひとりの市民として楽しく市政に関わりましょう。

連絡先 ・ e-mail kusasigi@nifty.com

・ 〒190-0154 あきる野市高尾 182-1 Tel&Fax 042-596-4569(佐橋)

